

# 経営インフラの不備を探る グループ企業監査の手法

～経営層とバッティングしない経営監査の捉え方と実務展開

「内部監査実務マスター・コース」〔第9回開催分（全9会合）〕

●日時 ● 2018年5月15日（火）14:00～17:00

●会場 ● 東京・飯田橋『日本出版クラブ会館』

●講師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）

大手監査法人で20年近く会計監査に従事し、その間、法人内の会計監査アプローチの普及・研修活動や公認会計士協会本部の委員会活動にも専念。その後十余年は、アンダーセン、PwC及びE&Yの監査法人で内部監査、内部統制、リスク管理、不正調査等に特化。新日本監査法人シニアパートナーを2012年に退任後はボルボグループで日本の内部監査統括の経験も経て、現在も同グループ会社UDトラックスの監査役として監査に従事。また藤井範彰公認会計士事務所代表として内部監査等の研修・執筆活動にも従事。著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」2016年同文館出版、「内部監査の課題解決法 20」2012年税務経理協会、論文「内部監査報告書の本質論と実務対応～監査の指摘事項と改善提案をめぐる問題」日本内部監査協会「月刊監査研究」2017年5月号、「海外監査の検討課題～成熟度レベルに応じた問題認識と対応」同2013年11月号、「リスクマネジメントに対する内部監査の対応～最適化シナリオに向けて」同2012年3月号掲載、他多数。

## ●プログラム●

### ■講義／経営インフラの不備を探るグループ企業監査の手法 <14:00-16:30>

業務監査に比べると、経営に近い領域で問題を提起し改善を促す経営監査は、経営へのインパクトが大きく、貢献度も高いのは当然です。しかしその実務は日本ではあまり根付いておらず、むしろ内部監査の守備範囲を逸脱するとみなして遠ざけたり、経験・ノウハウ不足でうまくできていないケースが見られます。こうして経営監査の捉え方・進め方が実務のネックになっている状況を踏まえて、今回は経営監査が理論的にも内部監査の枠内できちんと説明でき、かつ実務的にも十分展開可能だということを実際の進め方を紹介しながら解説いたします。

典型的な経営監査とは、この事業部がなぜ赤字から脱却できないのかとか、この子会社はどのようなビジネス構造で事業に失敗したのかなどの疑問に対して事業体全体のビジネスモデルやリスクの分析から解決の方策をさぐるという監査です。これをビジネスモデル型経営監査と位置付けてその考え方やアプローチを解説し、事例などを通して具体的な方法を検討します。

1. 経営監査の切り出し方 — 業務監査との違いをサポートする論理と実務の整理
2. ビジネス・アプローチ型経営監査の進め方 — 監査アプローチと留意点
3. 経営監査の指摘や改善提案の事例解説 — 実際例から理解する経営監査のポイント

### ■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント <16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋がっていただきます～

## ●参加要領●

### ●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

[本体価格 29,000円 本体価格 32,000円]

\* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者のご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

### ●申込先（社）企業研究会

担当) 居代 E-mail: ishиро@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麴町 5-7-2

TEL 03-5215-3516 / FAX 03-5215-0951 ~ 2

170188	2018 5/15 内部監査実務マスター・コース		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			